

あおぞら



NPO 法人 あいかわ工房  
 広報 VOL.45 2019.1.1  
 編集 あいかわ工房編集委員会  
 発行責任者 熊谷直丈  
 ホームページ あいかわ工房 [検索](#)  
 TEL 046-281-1157

# 謹賀新年



平成三十一年 元旦

静岡県 さったとうげ 薩埵峠より

明けまして

おめでとうございます

今年も皆様にとって

良い年でありますよう

心よりお祈り申し上げます

平成21年に就労継続支援B型の指定を受けて満10年を経ました。これも偏にお仕事を提供して頂く企業様、関係機関の皆様のお力添えと、職員のたゆまぬ努力の結果と、皆々様に心より感謝申し上げます。

本年もご指導ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

所長 熊谷直丈

東名高速道路・国道1号線・JR東海道線が並ぶ大動脈昔は波にさらわれる様な交通の難所を過ぎて由比の宿から登ると薩埵峠に着きます。歌川広重の東海道五十三次にも描かれています。





年頭のご挨拶



理事長 瀧 亀久男

明けまして

おめでたいなごます

年頭に当たり皆さまのご健勝とご多幸を心からご祈念申し上げます。

昨年を振り返ると自然災害多発の年でした。島根県東部、大阪府北部、北海道胆振東部の地震、各地の豪雨、豪雪そして猛暑と次から次へと発生し大きな被害を残しました。

漢槓の世相を表す一字も「災」が選ばれました。幸いなことにあいかわ工房では大きな災害もなく無事に年越しが出来ました。心から感謝しております。

本年は元号も改まる予定です。自然災害のない年になることを願っております。

県立津久井やまゆり園の事件を契機に神奈川県民が取り組んでいる『ともに生きる社会』の実現は道半ばですが、今後心して進めたいものです。一方、障がい者を取り巻く環境は中々改善されません。特に虐待問題には注意が必要です。

私共あいかわ工房も昨年12回目の総会を開催いたしました。社会の在り方も、利用者の要望も年々変化してまいります。利用者が通所して良かったと思えるよう一つ一つ改善を積み重ねることが必要です。あいかわ工房にか

かわる全員が一つの目標に向かって努力してゆけば実現は可能です。今年は無病息災の意味合いがあると思います。

あいかわ工房の進化をお願い健康第一を motto に一歩一歩進んでまいりますので皆さまのご支援をお願い申し上げます。

利用者の皆様の  
今年の抱負

RAさん

ネジ外しの量を増やしたい  
物が二重に見える時にお休みしているので体調を整えたい

AIさん

現状維持で進みたいが、何か新しい作業があれば挑戦したい

MUさん

一日一日を楽しく過ごしていければ良い  
作業はグリス塗り・ドリンクホルダーをもっとやりたい

KUさん

毎日の作業をがんばります

KSさん

健康に注意して、何事にも挑戦したい

MOさん

施設外でやっている、Bの仕事をもっとたくさん出来る様にしたい

NOさん

いろいろな仕事をしていきたい(空き缶・脚付け・CD剥しなど)

外でのCD出し作業をもっとやりたい

NKさん

風邪をひかないように気を付けて、体調管理をして行きたい

SKさん

CDを20kg出来る様に頑張る  
髭剃りも毎日忘れずにします

MKさん

まず、健康に気を付けます  
食事面も栄養を考えて摂るようにします

MGさん

仕事の量を全体的にたくさん出来る様にしたい  
みんなとのコミュニケーションも増やしたい

MSさん

取り付け書の作業を頑張って違う種類のものにも挑戦したい  
ビニールも数をこなして、集中して作業に取り組み、生活リズムも整えていきたい



YSさん

手袋の束ね作業を間違えない様に頑張りたい

ETさん

刷毛のスポンジ張りを45本出来る様にしたい

TNさん

筋肉痛にならない様に、筋力をつけてムキムキになりたい

HNさん

早寝・早起きを心がけます

KFさん

体重を適正なもの(60kg以上)に太りたい

MMさん

平穏な日々を過ごしたい

TYさん

健康に注意して、健全な心で過ごしたい

SWさん

仕事を頑張ります

4名の方が欠席でしたが、昨年12月28日の仕事納めの時に伺った、今年の抱負です。皆さん健康面を考えられているのと、仕事をもっとたくさんやりたいと云う頼もしいお気持ちでした。

# 梅 干 し

所長 熊谷直丈

明けまして おめでとうございます

本年も皆様にとって幸多き年でありまますようお祈り申し上げます。北の方では大雪の報がもたらされておりますが、関東地方は平穏な正月を迎えました。

## 梅一輪 一輪ほどの

あたたかさ

嵐雪

待ち遠しい春ももう少し我慢して過ごせば必ずやって来ます

梅は二千年も前に中国から

『烏梅』(うばい) 梅の実を燻して薬としたとして日本に持ち込まれ、その後苗木が輸入されました。以来梅はその実が重用され、戦国時代には薬として、食欲亢進剤として、また鉾山では鉾塵の対策として防毒マスクにも使われたそうで、石見鉾山ではこのマスクを「福面」と称して使われたそうです。

現在でも梅干しは保存性が高く料理の味付けやおにぎりの定番、昔は弁当箱の真ん中に大きな梅干し一つ、日の丸弁当と云っていた頃が懐かしい方も多いと思います。我々日本人にとっては大切な食材です。

梅干しの効用から日本各地に広まり、和歌山県南部村(みなべむら)の高田さんが栽培した苗の一本に大粒の素晴らしい実がなったことでこれを母樹「高田梅」として大切に育てました。

全国で優秀な梅の調査の結果、高田梅が最優秀とされ5年間の調査に尽力した『南部高校』の南と『高田梅』の高をとって『南高梅』と名付けられました。有名な紀州南高梅です。神奈川県でも梅の栽培は盛んで、『曾我の梅林』など多くの梅林が点在して、梅干しが作られています。私は昔ながらの素朴な梅干しが好きです。

梅はその枝に咲く花すべてに実をつけることから子孫繁栄の縁起物と言われています。又「紅梅」「白梅」の違いは幹の色によるもので、花が紅でも切った枝が白ければ白梅だそのうです。

塩分が多いので、食べ過ぎると血圧上昇に繋がりますから注意ですが、見ただけで唾液が出て来ます。この唾液は殺菌作用があり更に飲み込むことで、飲み込む力嚥下力が付いて誤嚥が少なくなりまます。お昼ご飯に小梅を一粒如何でしょう。

## 梅は咲いたか

桜はまだかいな ♪

別名 春待草 とも



幹が紅い 紅梅です



花は紅梅でも分類は幹が白い 白梅です

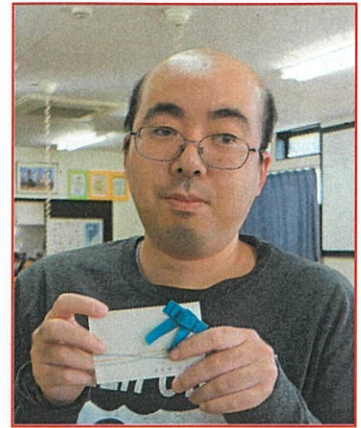




12月生まれ



12月生まれ



11月生まれ



上田良光さん  
10月27日福祉大会  
で、永年勤続の表彰を受  
けました おめでとうご  
ざいます これからも宜  
しくお願いします



10月21日 ふるさと祭り  
熊坂さんと齊藤さんに販売の手伝いをして貰いました



10月30日 屋外研修  
県の福祉バスで河口湖方面へ行き  
ました 猿まわし劇場でお猿さん  
の楽しい芸を見たり、遊覧船にも  
乗りました お昼ご飯は山梨の名  
物 ほうとう を食べました



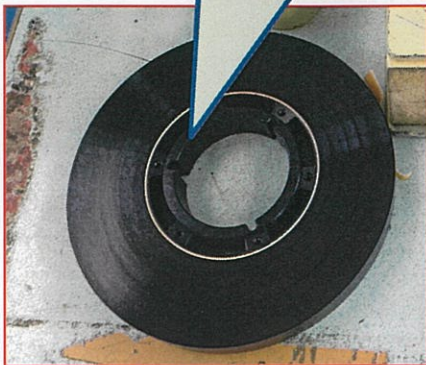


業務用の大きなビデオテープの解体作業が入りました  
 今までの工具では対応できないので、いつもお願いしている  
 角田の 齋藤栄治 さんに作って貰いました

この機械に取り付ける  
 リングの部品にテー  
 プがしっかり巻き  
 付いて外せません

両サイドの板のネジ  
 を外します

放送局などで使用す  
 るビデオテープです



市販の油圧ジャッキを買って来て、  
 基本設計に沿って作って貰いました  
 現物合わせと、強度がどれくらい要  
 るか試したら非常に硬くて、下の鉄板  
 が盛り上がってしまい、鉄板の補強と  
 テコの上部に補強を入れて貰いました

結果は非常に楽に外すことが出来る  
 機械が出来上がりました

齋藤栄治さん いつも難しい注文を  
 こなして頂き有難う御座います





## 職員研修を行いました

サービス管理責任者 武藤 育子

平成30年度の職員研修12月15日(土)に行いました。講師には、愛名やまゆり園相談支援専門員 小島健司さんをお願いして利用者さんとの対応、特に思わぬことが虐待になるようなことなど、実例を交えて貴重な勉強をさせて頂きました。

近年、障がい者を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。支援者に対して求められることも変化しており、現在のニーズに合わせた対応が求められています。そこで、虐待防止法、差別解消法、意思決定支援について学びました。

虐待とは虐待をしているかどうかではなく、周りの人が見た時に虐待だと感じるかで判断されます。もちろん、されている側が虐待だと感じなくても周りがそう判断すれば、その行為は虐待になります。転倒防止や安全のための腕を組む行為やベルトの使用であっても、身体を拘束していることには変わりありません。その状況が当たり前のことにならないよう、意識することが大切だと学びました。普段の支援を振り返り、その言動はどういう意味があるのか説明できる物でなければならぬと、再度認識しました。

合理的配慮では、機会が均等に得られることが重要になってきますが、実現が難しいこともあるのが現実です。そんな時でも、お互いが歩み寄り納得してもらええる方法を一緒に考えることが大切です。

意思決定支援は、可能な限り本人が自ら意思決定できるよう支援すること、支援を尽くしても本人の意思及び選好の推定が困難な場合、最後の手段として本人の最善の利益を検討するために事業者の職員が行う支援の行為及び仕組みを言います。

あいかわ工房では月に1回『みんなの時間』と言うものを設け、発信力をつけてもらえるように取り組んでいます。どんなことをしたのか・何に困っているのか等を周りの人に伝えられるよう、『人前で話をする』ことを大事にしています。職員は聴く力を高め、その言葉の意味を考えるよう努力しなければいけません。以前、『避難準備・高齢者等避難開始』の情報が出たら避難しますか?ということを聞いた時がありました。『安全』な場所に避難する方もいましたが、多くは『安心』出来る家に残ると言う答えでした。これも意思決定だと思えますが、私たち支援者は安全な場所が安心な場所にもなるように思いをくみ取ることが重要です。合理的配慮も意思決定支援も、『コミュニケーション』が大切なカギになっているように感じました。

これからも、就労継続支援B型事業所に求められていることは何かを常に意識し、より良い支援が出来ますよう勉強を重ねてまいります。



## 高度な作業に慣れて来ました

大器機械(株)様から頂いている、機械部品のバリ取り作業は、早いもので一年になろうとしています。利用者の方は二人でお願いしていましたが、一人の方が途中で辞められましたが、新しく来た方は前に機械加工の会社で旋盤を使われていたので慣れも早く、良い仕事をしてくれています。



## 編集後記

障がい者協議会が発足して4年になろうとしています。会長の大役を仰せつかり、十分なことも出来ずにおりますが、愛川町の事業者同士が顔の見えるお付き合い、情報のやり取りが出来る関係を心がけています。

介護保険法が改正され、縦割りから横との連携をとる事、障がい者も介護を受ける立場になることも考えて、協議体のメンバーに入れて頂きました。

住まいのある春日台の「きずなの会」と連携して、買い物支援の実証実験を始めました。送迎車の空いている時間に、春日台からコピオへの買い物便を週に一回、提供いたしています。半年ほど継続してリポートを提出する予定にしています。

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。宜しくお願い致します。

熊谷